

(仮称)

第 3 期清川村まち・ひと・しごと創生総合戦略

(骨子案)

清川村

## 目次（構成案）

### 第1章 清川村人口ビジョン

第2章 総合戦略について（総論）	1
1 総合戦略とは	1
2 趣旨及び目的	1
3 位置付け（総計等との関係）・検証（進行管理）	2
4 実行期間	2

第3章 地域ビジョンと基本目標	3
1 村づくりのビジョン（将来像）	3
2 目標設定の前提	4
3 基本目標の設定	5

### 第4章 施策体系

### 第5章 施策の展開

- 1 基本目標1
  - （1）重点施策1-1
  - （2）重点施策1-2
  - （3）重点施策1-3
- 2 基本目標2
  - （1）重点施策2-1
  - （2）重点施策2-2
  - （3）重点施策2-3
- 3 基本目標3
  - （1）重点施策3-1
  - （2）重点施策3-2
  - （3）重点施策3-3
- 4 基本目標4
  - （1）重点施策4-1
  - （2）重点施策4-2
  - （3）重点施策4-3

## 第1章 清川村人口ビジョン

- ・素案を基に案を作成

## 第2章 総合戦略について（総論）

### 1 総合戦略とは

「清川村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）」は、まち・ひと・しごと創生法第10条の規定に基づき、急速に進展する少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、村民一人ひとりが夢や希望を持ち、豊かな生活を営むことができる社会の形成と多様な人材の確保、多様な就業の機会の創出を一体的に推進するため、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略として定めるものです。

### 2 趣旨及び目的

本村では、平成28年度に「第1期総合戦略」を策定し、村の魅力や賑わいを創出し、地域を活性化するため各種の施策を展開してきました。

また、令和2年度に策定した「第2期総合戦略」では、前期の取組みを踏襲するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）の推進を踏まえ、時代に即した取組みを推進してきました。

しかしながら、東京一極集中、全国的な人口減少・少子高齢化などの煽りを受け、村の人口は最盛期（約3,500人）からおよそ20%減少。人口ビジョン（第1章）での推計によれば人口減少は今後も継続し、2045年には2,000人程度まで落ち込むだけでなく、人口構造にも大きな変革（生産年齢人口と老年人口の逆転）が起こることが推定されています。

さらに、未曾有の感染症の世界的流行により、デジタル技術の導入が急速に進んだことで、所謂「転職なき移住」が進み、地方創生にも追い風となったものの、一過性のものであり県央地区においても明暗が分かれ始めています。

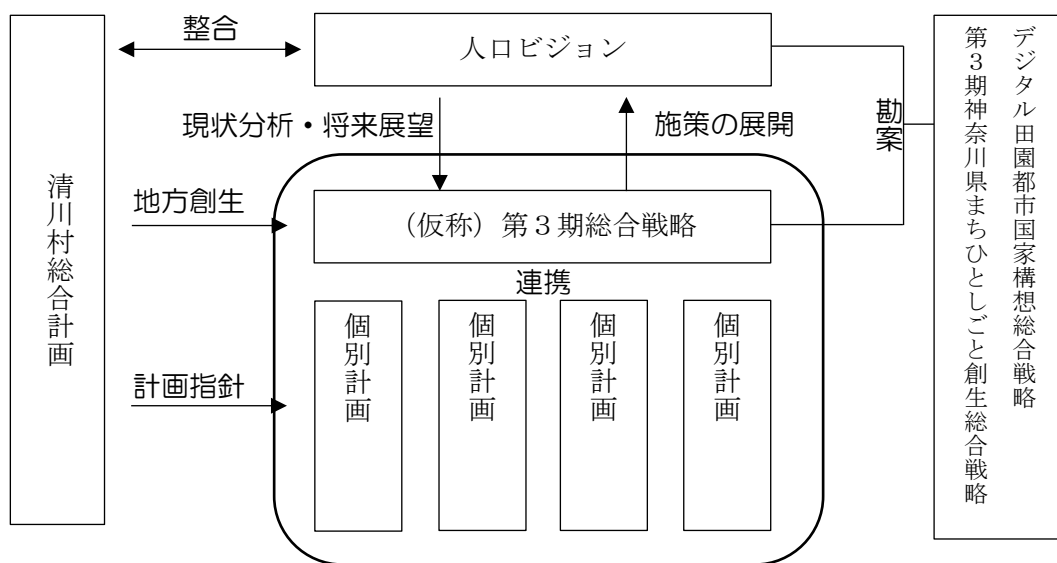
今後ますます大きな転換を迎えるであろう社会情勢を乗り越え、将来にわたって持続していくためには、時代の潮流を確実にとらえ、複雑化する行政需要に的確に対応し、より発展的かつ挑戦的な村政運営により新しい取組みを推進していくことが必要不可欠です。

「(仮称) 第3期総合戦略」は、そのような社会情勢にあっても、次代を担う若者が将来に夢や希望を持って活躍できる環境を整備することで、持続可能な村づくりを実現し、未来永劫発展し続ける村をつくりあげることが目的として策定したものです。

### 3 位置付け（総計等との関係）・検証（進行管理）

#### （1）位置付け

第4次清川村総合計画との整合を図るとともに、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」や神奈川県「第3期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、策定しています。



#### （2）検証

本戦略の推進にあたっては、PDCAサイクルを確立し、有識者等により構成される検証機関（推進委員会）による効果検証を踏まえ、必要に応じて見直を行います。

また、個別施策や事業の推進にあたっては、OODAループを活用し、変化の著しい現代の社会情勢に的確に対応します。

### 4 実行期間

令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

## 第3章 地域ビジョンと基本目標

### 1 村づくりのビジョン（将来像）

村ではこれまで、「第2期総合戦略」に基づき、人口減少や少子高齢化へ立ち向かうべく、地域資源の発掘や新たな魅力を創出しながら、子どもから高齢者までのあらゆる世代が活躍でき、安心して住み続けられる村づくりに取り組んできました。

これまでの多様な施策による成果をより一層伸ばすとともに、複雑化する行政課題に着実に対応し、これまで以上の成果を生むための新たな施策を積極的に展開していくため、「(仮称)第3期総合戦略」においては、3つの基本的な視点を定め、これらの実現に向けたこれまでの施策効果の検証と新たな取り組みへの挑戦を推進します。

また、目まぐるしく変化する社会情勢の中で策定された「デジタル田園都市国家構想総合戦略」における視点を取り入れ、柔軟かつ的確な行政課題へのアプローチを展開していきます。

#### 【基本的な視点】

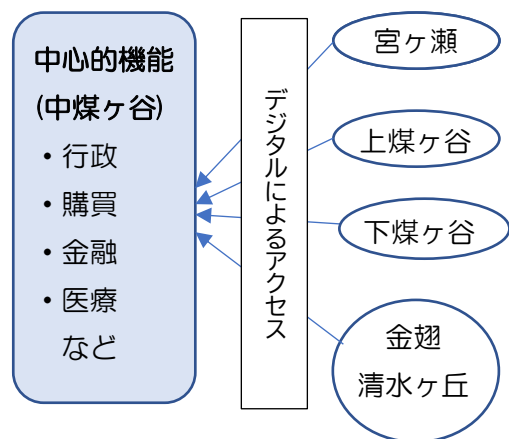
『 新たな時代を切り拓く “スマートビレッジ” の構築 』

- デジタル技術を活用し、地域課題を迅速に解決する
- 年齢・性別に関わらず、活躍できる環境を整備する
- 新しい時代に対応した、持続可能な地域を創造する

#### <スマートビレッジ>

村はこれまで、役場周辺に行政機能や商業施設を集結させることで利便性を向上する「コンパクトビレッジ」の取り組みを推進してきました。

これからの村づくりにおいては、「コンパクトビレッジ」の形成により得られた物理的・空間的な利点に加え、デジタル技術を活用することでこれらの生活基盤にどこからでもアクセスできる利便性を備えることで、誰もが快適に暮らすことができる地域を目指すとともに、新たな価値を創出し、持続可能な地域づくりに必要な機能を構築することで、「スマートビレッジ」の実現を目指します。



## 2 目標設定の前提

### (1) デジタル田園都市国家構想総合戦略

国では、第2期総合戦略（2020～2025 年度）に基づき、情報支援や人材支援、財政支援等の施策を推進してきましたが、テレワークや地方移住への関心の高まりなど、社会情勢が大きく変化していることを踏まえ、2022 年度に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」へと抜本的に改訂を行い、デジタルの力を活用した地方の社会課題解決と地方のデジタル実装を下支えするための基礎条件整備を位置付けました。

これにより、地方自治体は、地域それぞれが抱える社会課題等を踏まえ、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを再構築し、効果的かつ効率的に課題解決に取り組むこととしています。



### (2) 持続可能な開発目標への配慮

2015 年 9 月、「誰一人取り残さない」社会を実現するため、17 のゴール・169 のターゲットから構成される SDG s が、国連サミットにおいて全会一致で採決されました。

国においては、首相を本部長とする持続可能な開発目標（SDG s）推進本部の会合で、「SDG s アクションプラン」が決定され、「(1) SDG s と連動する『Society5.0』の推進」、「(2) SDG s を原動力とした地方創生」、「(3) 次世代・女性のエンパワーメント」の3つの柱に沿って具体的な取組を進めていくものとされました。

これまでの村づくりにおいても、持続可能な社会の実現に向けすべての施策を連動させることで総合的に施策を展開してきましたが、(仮称)第3期総合戦略においてもこの考え方を承継し、着実に持続可能な社会の実現に貢献していきます。



### 3 基本目標の設定

前述の地域ビジョンのもと、「(仮称) 第3期総合戦略」においては、これまでの取り組みを継承しつつ、より発展的かつ次世代を見据えた4つの基本目標を設定し、従来の取り組みの継続及び強化並びに新たな取り組みを推進します。

#### I 働きたい“しごと”をつくる

長期にわたって村の人口減少を抑制し、安定した地域をつくるためには、若い世代が安心して就労できる環境を創出し、安定的な地域経済を構築することが必要です。

村が有する資源を活かし、“しごと”への新たな価値を見出すことで、若者の就労意欲を高め、継続的に従事できる環境となるよう新たな視点から振興していきます。

また、積極的な企業誘導を推進し、本村の地域特性を活かした新たな産業の創出や創業促進による雇用機会の創出を目指します。

<数値目標>

(生産年齢人口の増加に関する指標)	現状値	将来値
-------------------	-----	-----

#### II 行ってみたい“魅力”をつくる

転出超過が続く現状を克服するには、新たな移住希望者を創出し、増やしていく必要があります。宮ヶ瀬湖や丹沢山といった観光資源のほか、都心や市街地からのアクセスの良さを強みとして来訪者を増やし、村の魅力を体感してもらう機会を積極的に提供することで、活発な人口の交流を促進します。

また、多様な暮らし方ができる拠点と環境づくりを推進するとともに、就労希望者のニーズとのマッチングを促進し、移住意欲の向上を図ります。

<数値目標>

(転入者・交流人口の増加に関する指標)	現状値	将来値
---------------------	-----	-----

### Ⅲ 叶えたい“未来”をつくる

先の見通せない現代社会においても、次の時代を担う若い世代が将来に夢や希望を持つことができ、結婚、出産、子育て、教育に最適な場として選ばれる地域づくりに取り組みます。

また、全国的に若い世代の結婚比率や出生率が低下している現状において、結婚に対して前向きな感情を持つことができ、家庭を持ちたいという意欲を抱くことができる環境を創出します。

<数値目標>

(年少人口の増加に関する指標)	現状値	将来値
-----------------	-----	-----

### Ⅳ 住み続けたい“地域”をつくる

2045 年には生産年齢人口と老年人口の逆転が予想され、村の人口構成比率はますます不均衡となっていく中で、地域コミュニティや公共サービス等の維持はますます困難な状況となっていくことから、若年層の帰村意識を高め、あらゆる世代が暮らしやすい地域づくりを目指します。

また、村が有する豊富な自然との親和性や村民相互のつながりを大切にすることで、村の歴史を後世に紡いでいく意識の醸成を図ります。

<数値目標>

(総人口の増加に関する指標)	現状値	将来値
----------------	-----	-----